

## より良い景観検討のためのカルテ（チェックシート）

記入年月日：令和4年 2月 22日

チェック担当課：公共施設マネジメント課

事業の概要	
事業名	(仮称)川西北こども園整備事業
事業個所・対象地	丸の内町 7-1
事業期間	令和元年度から令和4年度
事業の対象となる 公共施設等	道路 橋梁 河川・水路 公園・緑地 公共建築物等
事業に含まれる要素 (個別指針より)	法面・斜面 擁壁 護岸 舗装 付属施設(防護柵、公共 サイン) 建築物
構想・計画段階(各事業共通)	
項目1	景観形成の指針を把握する。
項目2	共通指針(全体指針 A-1~A-5、B-1~B-5)の内、本事業で特に配慮する指針と具体的に配慮する事項を記入する。
(例) B-3	(例) 当該地の景観特性を入念に調査し、計画に反映させる。
A-5	公募型プロポーザルを行う際の設計・監理仕様書へ「川西市景観条例を遵守し、周辺環境と調和するように計画する」と記載することにより、構想段階で指針を計画に反映させる。

設計・施工段階 / 公共建築物等		
基本指針、共通指針、景観類型別指針を踏まえた「より良い景観検討のための景観配慮事項」への対応と、具体的に配慮・検討した内容を記入する。		
✓	より良い景観検討のための配慮事項	配慮・検討した内容
☑	周辺景観との調和に最大限配慮し、高さの抑制等により周囲に威圧感を与えない計画を探る。	建物は2階建てとし高さを抑え周囲の景観に配慮した。
☑	形態・意匠・色彩（デザイン）は、屋上や壁面等の積極的な緑化により、市街地の中において緑豊かで潤いのある景観形成に配慮した計画を探る。 【具体的配慮事項】 ・建築物の外観の色彩は、周辺の緑などの自然物の色彩や周辺のまち並みの色彩に配慮し、周囲から突出しない色彩にする。 ・建築物の外観のにぎわい演出方法として、通りに面した低層部にアクセントカラーを用いた外観意匠やフラッグやテント材等による意匠も効果的である。 ・彩度の基準（景観形成基準） R,YR系6以下、Y系4以下、その他2以下	閑静な住宅地であるため、建物の高さを低層とし隣接する建物との調和を計った。 勾配屋根は銀鼠色の落ち着いた色を選定し、隣接する建物との調和を計りつつ、建物の用途上、外壁の一部にアクセントカラーを用いることを検討。
☑	植栽は、敷地内・外からの見え方を意識した樹種の選定・配植を検討する。 【具体的配慮事項】 規模に応じて、県条例・開発指導要綱の緑地面積を確保	外部に面する部分に植栽の配置を検討。
☑	柵・フェンス等は、閉鎖的にならない意匠・色彩を検討する。	敷地周囲はネットフェンスを設置し開放性を確保する。
☑	施設名表示や案内板等のデザイン統一化を検討するとともに、シンプルで控えめなデザインを検討する。	建築物全体としてとりまとめのあるもので検討。